

寸法許容範囲の広い民族衣服の形態別分類とその特性

The Classification of the Form of the Racial Costume of Free Size and their Characteristic.

大矢 愛美

Manami Ohya

Abstract

The purpose of this study is to classify the type of the racial costumes whose allowable range of measure is large and to analyze their characteristic in order to consider systematically about modern design of clothing. It means free size that the allowable range of measure is large. The advantage of free size lies in the point that design is so simple and easy to be made. The representative among many racial costumes is Kimono in Japan. Kimono is able to be made with a slight measurement. All cloths are not used in vain. It is the wisdom of life. As the racial costumes are often taken up as the subject of fashion show, they have originality and fashionation. Therefore, if we remake the racial costumes in order to accommodate themselves to the present day, they will have many possibilities of becoming fresh design.

1 緒言

民族衣服から発展させ、現代的被服デザインを体系的に考えるため、今回は寸法許容範囲の広いタイプの民族衣服の分類、特徴を分析した。寸法許容範囲の広い衣服というのは、日常フリーサイズと言われている衣服のことである。民族衣服は、古来から受けつがれてきた衣服が多いため、体型にフィットした立体的な衣服は技術的に困難であったり、貴重な布を切りぎざむことをしなかったりなどの幾つかの理由のため、フリーサイズである場合が多いと考えられる。フリーサイズの利点は、デザインの構造が単純なため生産過程を簡単にすることができ、販売面の合理化を計り、消費者はゆとりのある衣服なので着装の変化を楽しむことができる。

寸法許容範囲の広い代表的な民族衣服といえば、日本の伝統的な着物がまさにそうであると言える。着物は、身丈、ゆき、全体の身幅の採寸だけで作ることができ、洋服と比べるとはるかに採寸の部位が少ないことがわかる。そして着装で身体にフィットさせて着るため、反物から着物に仕立てる時、無駄な布が少しも出ない。これは布を大切にする生活の知恵であると思う。

民族衣服はしばしばファッションショーのテーマにも取り上げられるように、各々の民族衣服に独自の魅力がある。民族衣服を現代に適応するようにアレンジすれば、新鮮なデザインになる可能性を秘めていると言える。その可能性を引き出す下地を作ることが、本研究の目的である。

2 研究方法

寸法許容範囲の広い衣服を、衣料サイズのS、L、Mをすべて含むサイズと設定し、国立民族博物館の衣類特別収蔵庫に保管されている衣類標本及び、文献資料から寸法許容範囲の広い衣服である民族衣服を取り上げる。選出した民族衣服を、文化女子大学の小川先生の着装方式による型式分類と¹⁾、国立民族学博物館の大丸先生の衣服標本属性論を²⁾参考に形式分類し、一覧表にする。本文の表では関係付けられない部分を補うため、民族衣服を構造・着装の点から関係図を作成する。民族衣服の着装方式による形式分類別に、特徴を明らかにするために、特性列举法、利点列举法、欠点列举法、希望点列举法等で、利点や問題点を考察する。さらにデザイン要素を深く掘り下げるために、チェックリスト³⁾によって民族衣服を分析する。

3 結果および考察

3-1 着装方式による形式分類

着装別の5つの形式の概要をまとめると以下のようになる。

1) 巻き付け形式 (Winding Type)

長方形、半円形等の布地を、軀幹部に巻き付けて着装した服装の形式である。身体の一部を通過させて着るための孔や、成形した構造をもたない、広げれば一枚の布であるような衣服をさす。しかし、無縫衣であるとは限らない。この形式の衣服は、比較的長い布地の広幅織物を腰から胴、肩へと巻きつけて、垂直、斜線などの優雅な襷と美しいトドレープを表わし、着装によって服装形式を作り出す様式として特色がある。原始形式としては、腰布 (Loin Cloth) として、古代エジプト、現代熱帯土民などに用いられ、中世の裳・スカートなどの裾長の婦人用下肢被服として着装されているものも、この形式に含まれる。特徴は、寛裕で、ドレープ美や動体美を表わし、熱帯型の範囲に入る。

2) 掛け被い形式 (Hanging Tipe)

主として肩を支店として、布地を掛け広げて被う形式の衣服である。具体的な衣服としては肩掛類・マント・角巻き・打ち掛けなどの様式のものがある。これらは比較的不安定な着装方式に特徴がある。着方には、マント的着方と、ショール的着方と、片肌脱ぎ的着方がある。マント的着方は、長方形や半円形などの布で両肩を被い、肩先や胸元で留める。ショール的着方は、長方形、半円形、弓形の布を、前方又は後方から被い、両腕を露出して、緩やかに垂らす。片肌脱ぎ的着方は、ショール型の布より一般に大型の布を使い、右肩を出して着る場合が多い。この形式の特徴は、寛裕は着装で体型を現わすことなく、布地のドレーピングを示し、重厚で装飾的な材料を用いると、威容・厳肅・尊貴などの性質を出す。

3) 貫頭衣形式 (Covering-Through Tipe, Pull-Over Type)

この形式の衣服は、成形衣とドレーパリーの間様式である。原則として方形の布の中央辺に、頭を通すための孔、又は切れ目をつくる。着装するときは布を前後に垂らし、両脇は縫わず、袖もない衣服である。日本語の“貫頭衣”は、必ずしも両脇を縫わず、袖をもたない限定していない。今回の貫頭衣形式は、脇が縫製されていて、袖があるものも含むとした。貫頭衣は、布を直線的に用い、その中央に頭をだすための孔をつくる点でショール等と異なる。また平面的ドレーパリー性に特色がある。貫頭した衣服の支点を肩におき、その長さは、全身衣として長いもの、上衣として短いものがある。特徴は寛裕で垂直の襷が生じ、長いときはドレーピング効果を示す。

4) 包纏形式 (Wrapping Type)

前開きで袖付きまたは袖なしの全身衣を着て、前合わせをして、帯を締める（帯を締めない場合もある）着衣法である。この形式は東洋的であるとされ、カフタン型とも言われる。カフタンは、古くから広い地域—ペルシャ、トルコ、中央アジア、蒙古、中国、満州、朝鮮などの民族衣服として分布し、日本の和服もこれに属する。しかし言語や生活習慣が異なる地域にわたって用いられた名称やスタイルなどは、すべてが一致したある共通性をみいだすことは困難である。特徴としては、上体はやや体型を表わすが、下肢は両脚を同時に包纏する着装で、くつろぎに適したかたちであるとともに、不格好なものだらしないものという印象を与える場合もある。幅広の帯などは、東方の衣服の特色である。

5) パンツ・袴形式 (Pants Type)

下半身を覆うもののうち、腰および両脚を別々に包むものである。男性的で優雅さに欠くが機能的であると言える。比軸的寒帯地方に多い。

以上の5つの着装別形式分類をもとに、民族衣裳の分類を、表1～表5にまとめた。表の縦軸は、着装方式による形式分類で、横軸には、“巻く” “はおる” “かぶる” “はく” という単純な着装動作をとった。このように縦軸と横軸で似た要素の条件を設定した理由は、たとえば1つの民族服を取り上げた場合、その民族服の着装型態に1通りでない要素を持っている場合が多いためである。

表1. 着装方式による形式分類（巻き付け形式）

形 式	名 称	場 所	巻 く	は お る	か ぶ る	は く
巻 き 付 け 形 式	サリー	インド	○			
	ドーティ	インド	○			
	法衣（通肩）	インド	○	○		
	トーガ	ローマ	○	○		
	パラ	ローマ	○	○		
	トーベ	アフリカ	○			
	サロン	東南アジア	○			○
	ハイクロイナル	エジプト	○			
	サフサリー	チュニジア	○	○	○	
	ハイク	アルジェリア	○	○		
	チャドル	イラン	○	○		
	チャドリ	アフガニスタン	○	○		
	オルニー	インド	○	○		
	ソマリア	インド	○			
	巻きスカート	グアテマラ共和国	○			○
	スカート	メキシコ	○			
	女性用スーツ	リベリア共和国	○			
	巻き衣	エチオピア	○			
	サリー	ネパール王国	○			
	カラシリス	エジプト	○			

表2. 着装方式による形式分類（掛け被い形式）

形 式	名 称	場 所	巻 く	は お る	か ぶ る	は く
掛 け 被 い 形 式	テベンナ	ユトルリア	○	○		
	バルタメントム	ローマ	○	○		
	サグム	ローマ	○	○		
	ラセルナ	ローマ	○	○		
	ケスケメッツ	メキシコ		○	○	
	ケスメケトル	メキシコ		○	○	
	メンティリア	ペルー		○		
	マント・パニーレス	ペルー		○		
	マンタ	ボリビア		○		
	リキーヤ	ペルー		○		
	ヒマチオン	ギリシャ	○	○		
	バリウム	ローマ	○	○		
	クラミス	ギリシャ		○		
	ダルマチカ	ヨーロッパ		○	○	
	外套	アフガニスタン		○		
	女性用ワンピース	ソ連		○	○	
	女性用上衣	アメリカ合衆国		○		
	衣服	イギリス		○		
	未婚女性用ガウン	クウェート国、カタール国		○	○	

寸法許容範囲の広い民族衣服の形態別分類とその特性

表3. 着装方式による形式分類（貫頭衣形式）

形 式	名 称	場 所	巻 く	は お る	か ぶ る	は く
貫 頭 衣 形 式	ペニュラ	ローマ			○	
	襦袢	東洋			○	
	ポンチョ	中南米			○	
	キトン	ギリシャ	○	○	○	
	カンディス	ペルシャ		○	○	
	ストラ	ローマ	○	○	○	
	トウニカ	ローマ	○		○	
	チュニック	ビザンチン		○	○	
	ペプロス	ギリシャ		○	○	
	パンジャビドレス	インド			○	
	アミース・アラビ	エジプト			○	
	ガンドゥーラ	モロッコ			○	
	クルタ	パキスタン			○	
	ファラン	インド			○	
	ウィーピル	メキシコ		○	○	
	プエプロ	メキシコ			○	
	トゥースターベック	メキシコ			○	
	テワンスベック	メキシコ			○	
	モラ	パナマ			○	
	フグナ	ペルー		○	○	
	コトン	ペルー			○	
	レバース・マザーリ	アフガニスタン			○	
	女性用上衣	インド			○	
	女性用衣装	シリア・アラブ			○	
	ワンピース	アフガニスタン			○	
	ワンピース	イラン			○	
	シャツ	フランス			○	
	結婚衣装	トルコ			○	
	長衣	トルコ			○	
	上衣	トーゴ			○	
	ワンピース	ソ連			○	
	スカート	ユーゴスラビア			○	○
	ブラウス	メキシコ			○	
	ワンピース	ギリシャ			○	
	民族衣装	ギリシャ			○	
	上衣	アメリカ		○	○	
	貫頭衣	ボリビア			○	

表4. 着装方式による形式分類（包纏形式）

形 式	名 称	場 所	巻 く	は お る	か ぶ る	は く
包 纏 形 式	カフタン	中近東	○	○	○	
	着物	日本	○	○		
	カスピ草原地人の婦人服	カスピ草原	○	○	○	
	トルキスタン男子外衣	トルキスタン	○	○	○	
	チベット男子外衣	チベット	○	○	○	
	朝鮮婦人外衣	朝鮮	○	○	○	
	ヤクート族毛皮外衣	東洋	○	○	○	
	ガーボー	イラン	○	○	○	
	コーティ	パキスタン		○		
	アオザイ	ベトナム	○	○		
	チマ・チョゴリ	韓国	○	○		
	ウォンサム	韓国		○	○	
	袍子	香港	○	○		
	長衫	香港	○	○		
	サロン・カバヤ	マレーシア・シンガポール		○		
	ブラウス	ネパール	○	○		
	上衣	トルコ		○		
	ブラウス	インド		○	○	
	ドレス	アフガニスタン		○		
	女性用衣裳	シリア・アラブ		○	○	
式	上着	ソ連		○		
	外套	ギリシャ		○		
	ベスト	ユーゴスラビア		○		
	胡服	中華人民共和国	○	○		

表5. 着装方式による形式分類（パンツ・袴形式）

形 式	名 称	場 所	巻 く	は お る	か ぶ る	は く
パ ン ツ ・ 袴 形 式	シャルワール	トルコ				○
	スルワール	ネパール				○
	トンパン	アフガニスタン				○
	ソパジ	韓国				○
	ズボン	フィリッピン				○
	ドレス下ズボン	アフガニスタン				○
	夏服	中華人民共和国				○

寸法許容範囲の広い民族衣服の形態別分類とその特性

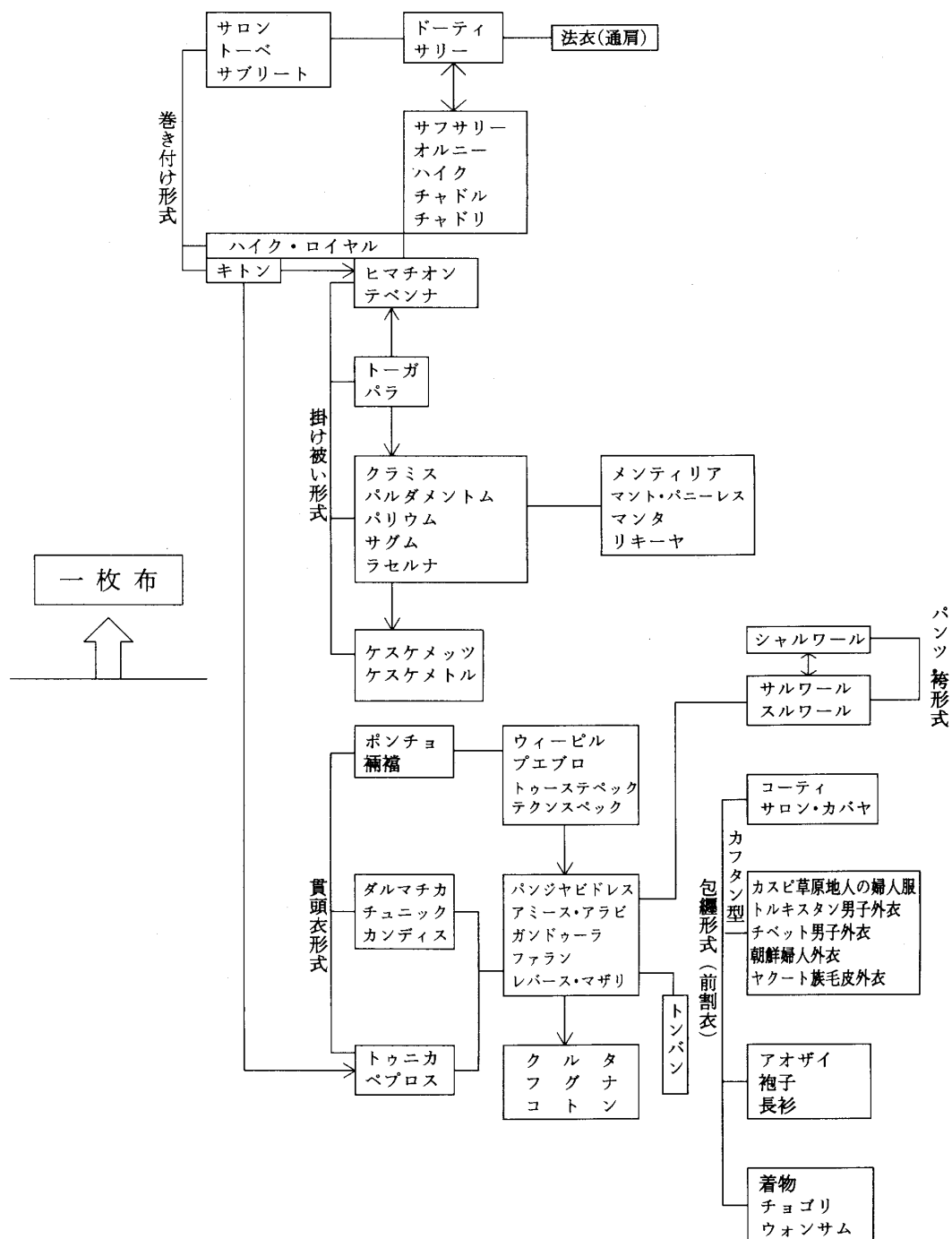


図1. 民族衣服の構造・着装の関係図

表1は巻き付け形式の衣服で、着装動作は、巻くという動作が中心で、それにはおろという動作が加わっているものが幾つかある。この形式が多く見られるのは、サリーの本場でもあるインドで、全体的に熱帯地方に分布される。この環境で発達した巻き衣は、農耕、牧畜生活が定着し、織物が織られるようになってから用いられた。織物の技術は極めて尊重されたので、苦勞して織り上げた布を切ることができずに、そのまま身体に巻き付けて着用した。インドのサリーやソマリア、エチオピアの巻き衣は、古代エジプトのカラシリス、古代ギリシャのヒマチオン、古代ローマのトーガなどが原型になっていると考えられる。アフリカ、メラネシア、インドネシア地方などのサロンは、下半身だけに巻き付けて着用する。これらのゆるやかに巻き付けた襷は、身体を涼しくし、皮膚呼吸を促す。着くずれしやすい巻き衣は、はげしい動作に向かないのにもかかわらず今日でも使用されているのはどうしてだろうかという疑問を持つが、30度を越える気候の中では、何をするのも物憂いと思われる。そのため洗濯も簡単で、管理も楽で場所を取らないという利点が衣服の発展をおさえたと考えられる。表2は掛け被い形式の衣服で、着装動作は、はおろという動作が中心で、それに加えて巻くとか、かぶるなどの着装動作が加わった衣服もある。この形式は、ローマ、ギリシャなど温暖地方に多く見られる。表3は貫頭衣形式で、着装動作は、かぶるという動作が中心で、他の着装動作はあまり含まない。温暖地方に多く見られ、最も原始的な着装形態と言える。古代エジプトのローブ、古代ペルシャのカンジス、古代ローマのチュニックなどが貫頭衣の基本で、古代ギリシャのキトンは、巻き衣より身体がとれる点で貫頭衣に近い。メキシコやペルーはボンチョが多い。表4は包纏形式で、着装動作は、はおろという動作が中心で、さらに前合わせをしている点で巻くという動作にもマークした。包纏形式はいわゆる前割衣で、寒帯地方で発達し、それは、寒さから身体を保護することから、野獣の皮などを体に密着するようにまとったことから始まる。また織物が織られるようになると身体構造及び保温との関係から、被服の形や縫製の技術が進歩し、特定の被服が成立したと言える。代表的な民族衣服は、トルコ、シベリアのカフタン、中国の胡服、韓国のチマ・チョゴリ、日本の着物などである。表5はパンツ・袴形式で、はくという着装動作のみである。代表的な民族衣服はトルコのシャルワールとネパールのスルワールがある。シャルワールは、大きな長方形の布を足を出す部分を残して袋の形式に縫ったもので、股の間には布がたぐわる着装形態をとるユニークなものである。スルワールは、シャルワールの股の部分をくり抜いて縫製されたもので、より現代のスボンに近いと思われる。全体を通してみると現代の衣服と比べて、民族衣服は簡単に構成されているのにもかかわらず、幾つかの着装動作を重ねていることがわかる。特に貫頭衣の前が別れて前割衣となった包纏形式は、着装動作を複数行なっている衣服が多い。巻き付け形式と、掛け被い形式は、類似する要素が多く、区別するのがわかりにくいという問題点がある。中南米など広い地域に分布しているのは貫頭衣形式であるが、個性的であるのは巻き付け形式で、着装方法がバラエティーにとんでいて、一枚の平面的な着装によってさまざまな形に変化するのとは大変興味深いと思う。

図1の民族衣服の構造・着装の関係図は、着装別形式分類の表で取り上げた民族衣服を、表では関係づけられなかった各々の形式のつながりを示したものである。巻き付け形式の民族衣服に始まって掛け被い形式、貫頭衣形式と発展していく。さらに貫頭衣から前割衣と移っていく。類似的な民族衣服は各々まとめて、共通するものを線で結んだ。

3-2 着形式別特徴

民族衣服の着方式による分類別に、特性列挙法で、名詞的特性、形容詞的特性、動詞的特性に分けて、特性をつかみ、利点列挙法、欠点列挙法、希望点列挙法で、問題点を把握し特徴をつかんだ。表6から巻き付け形式の特性は、一枚布で巻き付けて着用するといえる。この形態の利点は、一枚布であるので、保管に便利であり、また再利用もでき、着装の変化も楽しめる。欠点は、着装は困難なうえに着崩れしやすいという点と、重ね着しにくくので寒冷地方の衣類としては向かないという点である。希望点というのは欠点を改善することであり、この場合は、着装が簡単にでき、着崩れしない衣服となれば現代の衣服としても通用すると思われる。表7から掛け被い形式の特徴を考えると、マントやショールのように一枚の布をはおって着装するのが代表的な形態である。特徴は、着装が簡単であり、他の衣服の上から重ね着をすることができる点である。またドレープが美しく現れる衣服もある。欠点は着崩れしやすく、動作がしにくい。希望点は、着崩れせず動作も自由になることが望ましい。表8の貫頭衣形式は、襟ぐりに特徴があり、いたって単純な着装形態である。利点は、着装が簡単で、動作がしやすく着崩れしないという点である。欠点は、実用的ではあるが装飾性が薄いということがある。希望点は、形が単純なところは、布地の色・柄などで華やかさをだせたらよいのではないかと思う。表9の包纏形式は、前開きという点が最大の特徴である。利点は、前合わせをすることで体型にフィットさせることができるという点である。欠点は着崩れすることによってだらしく見えることで、希望点としては、前合わせの部分を補強し、留め具などで着崩れを防ぐことが望ましい。表10のパンツ・袴形式は、はくという動作が特徴で、男性的なイメージである。利点は活動しやすく、着装が極めて簡単で、下半身が冷えない点である。欠点は、裾が汚れやすい点と優雅さが乏しいなどである。希望点は、審美性が高くなるようなデザインを考えると良いのではないかと思う。

表 6. 着装形式別特徴（巻き付け形式）

	巻 き 付 け 形 式
特 性 列 挙 法	<p>（名詞的特性）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○一枚布 ○長方形の布（正方形を含む） <p>（形容詞的特性）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ドレープが美しい <p>（動詞的特性）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻き付けて着装する。 ○垂れている。 ○縫製していない。
利 点 列 挙 法	<ul style="list-style-type: none"> ○布のゆとりや垂れ下がりが、襷の列の流れとなり優美である。 ○長方形の一枚布であるので、管理上畳んでしまえる点で、保管に便利である。 ○布を裁断したり縫製しないので、再利用できる。 ○着装のバリエーションを楽しめる。
欠 点 列 挙 法	<ul style="list-style-type: none"> ○着崩れしやすい。 ○布の量が多く必要な場合が多い。 ○留め具が必要な場合もある。 ○脇が開いてしまう型もある。 ○着装が困難な型が多い。 ○重ね着しにくい。 ○寒冷地方の衣服としては不向きである。（衿元が寒い）
希 望 点 列 挙 法	<ul style="list-style-type: none"> ○着くずれしないように ○留め具がなくても着れるように ○布の量が少なくても着装できるように ○脇が開かないように ○重ね着ができるように ○寒さを防ぐことができるように ○着装が簡単にできるように

表 7. 着装形式別特徴（掛け被い形式）

	掛 け 被 い 形 式
特 性	<p>（名詞的特性）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○長方形の布 ○半円形の布 ○弓形の布 ○一枚布 ○襷
列 挙 法	<p>（形容詞的特性）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○襷が美しい ○丈が長い。 <p>（動詞的特性）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○垂れ下がっている ○羽織り掛けて着装する。 ○縫製していない。
利 点 列 挙 法	<ul style="list-style-type: none"> ○ドレープを美しく出す。 ○寛裕な着装で体型を表さない型が多い。 ○重厚で装飾的な材料を用いると厳粛・尊貴なイメージを出す。 ○布の再利用が容易である。 ○腕の部分まで大きく包まれていない限り腕の動きを妨げない。 ○一枚布なので保管に便利。 ○ショールの、又はマント的着方の型は着装が簡単である。 ○服の上から重ね着ができる。
欠 点 列 挙 法	<ul style="list-style-type: none"> ○着崩れしやすい。 ○着装によって手が不自由な型もある。 ○着装が困難な場合もある。 ○留め具が必要な着装形式もある。 ○装飾的に使用され、主体となる衣服が必要な場合もある。
希 望 点 列 挙 法	<ul style="list-style-type: none"> ○着くずれしないように ○手が自由に使えるように ○着装が簡単であるように ○留め具を必要としないで着装できるように ○掛け被い形式の衣服が単独で着装できれば便利である。

表 8. 着形式別特徴（貫頭衣形式）

	貫頭衣形式
特性 列挙法	<p>（名詞的特性）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○縦切り型の襟ぐり ○横切り型の襟ぐり ○Tの字型の襟ぐり ○袖 ○襟 <p>（形容詞的特性）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○単純である。 <p>（動詞的特性）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○首を通して被り着る。 ○縫製する。 ○垂れる。
利点 列挙法	<ul style="list-style-type: none"> ○頭の位置が固定する。 ○腕が自由に動かせる。 ○布が身体の後に関から二分されることから、肩山の位置がほぼ決まる。 ○袖が付けることができる。 ○動作がしやすい。 ○着装が極めて簡単である。 ○基本的に直線裁ちであるので、裁断・縫製が共に簡単である。 ○襟を付けて首元の寒さを防げる。 ○着崩れしにくい。
欠点 列挙法	<ul style="list-style-type: none"> ○脇が開いてしまう形式のものもある。 ○襟が付いていない場合は、首回りが寒い。 ○ゆとりが大き過ぎる。 ○優雅さに乏しい衣服が多い。
希望点 列挙法	<ul style="list-style-type: none"> ○脇が開かないように ○首回りが寒くないように ○体型に適度にフィットするように ○優美な感じになるように

表9. 着装形式別特徴（包纏形式）

	包 纏 形 式
特 性 列 挙 法	<p>（名詞的特性）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○襟 ○袖 ○縫製 ○身頃 ○衽 ○帯 ○前あき <hr/> <p>（形容詞的特性）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○長い ○重い <hr/> <p>（動詞的特性）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○前合わせの着装をする。 ○垂れる。 ○帯を締める。
利 点 列 挙 法	<ul style="list-style-type: none"> ○両脚を同時に包纏するので、下半身の体型を隠し寛裕さを出す。 ○畳んで収納できる。 ○再縫製することができる。 ○年齢、体型に囚われることなく着ることができる。 ○前合わせで着装するので着やすい。 ○合わせ分を調節することによって体型に合わせて着装できる。
欠 点 列 挙 法	<ul style="list-style-type: none"> ○着装が難しい形式もある。 ○前合わせで重なる部分が傷みやすい。 ○活動が不自由な衣服もある。 ○洗濯が困難な衣服もある。 ○着くずれしやすいためだらしなくなる恐れがある。 ○着装している時に、苦しい衣服もある。
希 望 点 列 挙 法	<ul style="list-style-type: none"> ○着装が簡単のように ○前合わせの重なる部分が傷まないように補強する。 ○活動が容易になるように ○着崩れしないように ○着苦しくないように

表10. 着形式別特徴（パンツ・袴形式）

	パ ン ツ ・ 袴 形 式
特 性 列 挙 法	<p>（名詞的特性）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 袴 ○ パンツ ○ 縫製 <hr/> <p>（形容詞的特性）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 太い（細い） ○ 長い（短い） ○ 勇ましい ○ 男らしい <hr/> <p>（動詞的特性）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ はく
利 点 列 挙 法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 動きやすい。 ○ 着装が簡単である。 ○ 下半身が冷えない。 ○ 腰回りのゆとりが大きいと着ごちが楽である。 ○ 上着との組み合わせにより、重ね着しやすい。
欠 点 列 挙 法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 股下がかさばる。 ○ 裾が汚れやすい。 ○ 温暖な地域では暑苦しい。 ○ 優雅さに乏しい。 ○ 女らしくない。 ○ 下半身の体型が出やすい。
希 望 点 列 挙 法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 着心地が良いように ○ 裾が汚れないように ○ 暑苦しくないように ○ 優美に見えるように ○ 女らしい感じに ○ 体型をカバーして見せるように

3-3 チェックリストによる民族衣服の練りこみ

民族衣服をデザイン化するために、デザイン要素を選択し、チェックリストによって民族衣服を絞りこんだのが、表11～表15である。チェックリストの項目は11項目で、“運動的機能性”、“着脱の容易さ・着くずれ”、“審美性”、“保管の容易さ”、“新鮮度・独自性”、“実用性”の項目は、良い場合は○、悪い場合は×、どちらともいえない場合は△をマークした。

“環境気温（季節感）”は、どの季節に一番適しているかを季節で示した。“年齢層”は適した年齢層を示したもので、年齢にはあまり関係のない衣服は“無”とマークした。“ゆとり量”は今回はフリーサイズの上着を取り上げているので、ゆとり量が小さい衣服はなく、大きい、巻き付けた場合などは適度なゆとり量であると考えた。“平面構成か立体構成か”では衣服の構造が平面構成なら“平”、立体構成なら“立”とマークした。“直線裁ちか否か”では、裁断方法が直線裁ちなら“Y”曲線裁ちなら“N”とマークした。表11の巻き付け形式からみると、運動的機能性や着脱の容易さ着くずれなどが全体的に良くなく、審美性、保管の容易さ、新鮮度、独自性などは良いといえる。季節感は冬は向かず、年齢層はあまり関係なく平面構成で、直線裁ちである。表12の掛け被い形式では審美性が良く、保管は簡単であるが動きにくいというのがわかる。年齢層はどちらかと言えば若向きである。表13の貫頭衣形式では、着脱が簡単で、着くずれもしない。この形式は実用的であるという点が大きな特徴で、ゆとり量も大きい。表14の包纏形式は、立体構成の衣服が多く、保管に不便であるといえる。季節は、冬向きである。表15のパンツ・袴形式では、サンプルが少ないという問題点があるが、着脱が簡単で、着くずれもなく、実用的である。民族衣服でこの形式の衣服は平面構成でゆとり量の大きいものが多い。全ての形式を通して言えることは、1つ1つの民族衣服を取り上げてチェックしても同じ形式では共通している点が多いので、3-2の着装別分類の特徴とほぼ同じ結果が出た。

表11. チェックリストによる民族服の練り込み (巻き付け形式)

名 称 ・ (場 所)	機 運 能 動 性 的	(季 節 感) 環 境 気 温	着 脱 の 容 易 さ 着 ぐ ず れ	審 美 性	容 保 易 管 さ の	年 齢 層	独 新 自 鮮 性 度	実 用 性	ゆ と り 量	立 平 体 面 構 構 成 成 か か	直 線 裁 ち か
サリー (インド・ネパール王国)	△	夏	×	○	○	無	○	○	適	平	Y
巻きスカート (グアテマラ共和国)	△	春・秋	△	○	△	若	○	○	適	平	Y
トーガ (ローマ)	△	春・秋	△	○	○	無	○	△	大	平	Y
法衣 (通肩) (インド)	×	夏	×	○	○	無	○	△	大	平	Y
ハイク・ロイヤル (エジプト)	○	夏	△	○	○	無	○	○	大	平	Y
チャドル (イラン帝国)	×	春・秋	△	○	○	無	○	○	大	平	Y
チャドリ (アフガニスタン共和国)	×	春・秋	○	○	○	無	○	△	大	平	Y
オルニー (インド)	△	夏	△	○	○	若	○	△	大	平	Y

良い…○
 どちらとも言えない…△
 悪い…×

Yes …Y
 どちらとも言えない…△
 No…N

寸法許容範囲の広い民族衣服の形態別分類とその特性

表12. チェックリストによるデザインの繰り返し (掛け被い形式)

名 称 ・ (場 所)	機 運 能 動 性 的	(季 節 感) 環 境 気 温	着 脱 の 容 易 さ 着 ぐ ず れ	審 美 性	容 保 易 管 さ の	年 齢 層	独 新 自 鮮 性 度	実 用 性	ゆ とり 量	立 平 体 面 構 構 成 成 か か	直 線 裁 ち か
テベソナ (ユトルリア)	×	夏	△	△	○	若	○	△	大	平	△
バルダメントム (ローマ)	△	夏	○	○	○	無	△	○	大	平	Y
ワソカイヨ (ペルー共和国)	×	春・秋	△	○	○	若	△	△	大	平	Y
ポイエラ (パナマ)	△	夏	○	○	△	若	○	○	適	立	N
ブルカ (インド)	×	春・秋	△	△	○	無	△	△	大	平	Y
チュンギナダ (ペルー共和国)	×	春・秋・冬	△	○	○	若	○	△	適	立	N
サンアントリオの花嫁 (グアテマラ共和国)	×	夏	△	○	○	若	△	△	適	平	Y
ケチュニア族女性衣装 (ペルー共和国)	○	春・秋	○	○	△	若	△	○	適	立	N
未婚女性用ガウン (クウェート国・カタール国)	×	夏	○	○	○	若	○	△	大	平	Y

表13. チェックリストによるデザインの練り込み (貫頭衣形式)

名 称 ・ (場 所)	機 運 能 動 性 的	(季 節 感) 環 境 気 温	着 脱 の 容 易 さ 着 ぐ ず れ	審 美 性	容 保 易 管 さ の	年 齢 層	独 新 自 鮮 性 度	実 用 性	ゆ と り 量	立 平 体 面 構 構 成 成 か か	直 線 裁 否 ち か か
ボンチョ (エクアドル共和国)	△	冬	○	○	○	無	○	○	大	平	Y
ボンチョ (パラグアイ共和国)	△	冬	○	○	○	無	○	○	大	平	Y
ボンチョ (ボリビア)	△	冬	○	○	○	無	○	○	大	平	Y
貫頭衣 (ペルー共和国)	△	冬	○	○	○	無	○	○	大	平	Y
上衣 (トーゴ共和国)	○	夏	○	○	△	若	○	○	大	平	Y
女性用スーツ (リベリア共和国)	○	春・秋	○	○	○	無	○	○	大	平	N
民族衣裳 (ギリシャ)	○	冬	○	○	○	無	○	○	大	平	Y
女性用上衣 (アメリカ合衆国)	○	春・秋	○	○	○	若	○	○	大	立	N

寸法許容範囲の広い民族衣服の形態別分類とその特性

表14. チェックリストによる民族服の練り込み (包纏形式)

名 称 ・ (場 所)	機 運 能 動 性 的	(季 節 感) 環 境 気 温	着 脱 の 容 易 さ 着 ぐ ず れ	審 美 性	容 保 易 管 さ の	年 齢 層	独 新 自 鮮 性 度	実 用 性	ゆ っ くり 量	立 体 構 成 か	平 面 構 成 か	直 線 裁 ち か
婦人用ブラウス (ネパール王国)	○	春・秋	○	○	△	無	○	○	適	立		N
女性衣装 (ネパール王国)	○	冬	○	△	△	無	○	○	適	立		N
婦人用上衣 (ネパール王国)	○	春・秋	○	△	△	無	△	○	適	立		N
上衣 (トルコ共和国)	△	冬	○	○	△	無	○	○	適	平		△
ブラウス (インド)	△	冬	○	○	×	若	○	△	適	立		N
ドレス (アフガニスタン共和国)	△	春・秋	○	○	△	無	△	○	大	平		Y
女性用ワンピース (ソビエト社会主義共和国連邦)	×	夏	△	○	△	若	○	×	適~大	立		N
女性用上衣 (ソビエト社会主義共和国連邦)	○	冬	○	△	△	無	△	○	適~大	立		N
謝肉祭用シャツ (オーストリア・チロル)	○	春・秋	○	○	△	若	×	○	適	立		△
女性用ベスト (ユーゴスラビア)	△	冬	○	○	×	若	○	○	適	立		N
女性用衣服 (ソビエト社会主義共和国連邦)	△	春・秋	○	○	△	若	△	○	適	平		△
外套 (アフガニスタン共和国)	×	冬	○	○	×	無	○	×	大	平		Y
外套 (イラン帝国)	×	冬	△	○	×	無	△	△	大	平		△
女性用外套 (ギリシャ・テッサリア)	△	冬	○	△	△	無	△	○	大	立		N
女性用外套 (ギリシャ・メツォヴォ)	△	冬	○	△	×	無	△	△	大	立		△

表15. チェックリストによる民族服の織り込み（パンツ・袴形式）

名 称 ・ （場 所）	機 運 能 動 性 的	（ 季 節 感 ） 環 境 気 温	着 脱 の 容 易 さ 着 ぐ ず れ	審 美 性	容 保 易 管 さ の	年 齢 層	独 新 自 鮮 性 度	実 用 性	ゆ とり 量	立 平 体 面 構 構 成 成 か か	直 線 裁 ち か
ズボン （トルコ共和国）	○	春・秋	○	△	○	無	×	○	大	平	Y
ズボン （フィリピン共和国）	○	春・秋	○	○	○	若	○	○	大	平	Y
シャルワール （トルコ共和国）	△	春・秋・冬	○	△	○	無	○	○	大	平	Y
スルワール （ネパール王国）	○	春・秋・冬	○	△	○	無	△	○	大	平	△

4 結語

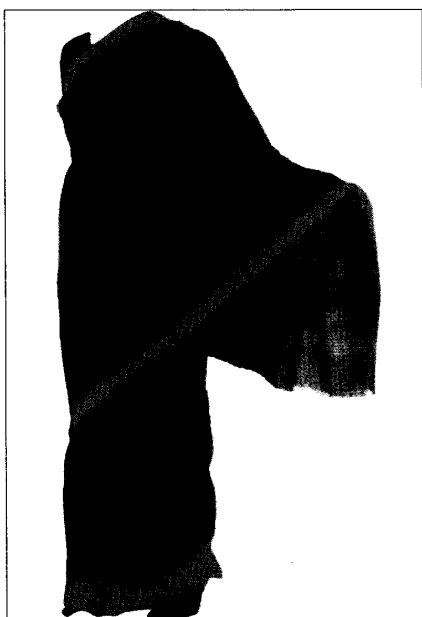
民族衣服を分類することは数々の問題点があるが、民族衣服をさらにデザイン化するにあたって体系的にデザインを考える場合、分類は第1歩の過程として必要であると考えられる。また、民族衣服をより深く把握するために機能を分析することも、ただ視覚的に捉えるより確実であると考えられる。衣服を言葉によって説明付けることは、限界があるかもしれないが、衣類が氾濫している現代において、感性のみに頼ったデザインでは、バラエティーな衣服が創造されないのではないかと考えられる。また体系的に筋道をたてて行うことによってごく限られた一部のデザイナーだけでなく、デザイナー以外の人間でもデザイン活動に参加することができる。従来までは、デザインがどのような発想から生まれたのか、相手に正確に伝達できない性質を持っていたが、この手法を使うことで明らかにすることができ、相手に対して説得力を増すことができると考えられる。民族衣服には、各々の地域性、つまり民族性・気候・風土・習慣等の歴史的背景があるので、強い個性があり、生活に密着した衣服である。この様な観点からみて民族衣服を時代遅れのものとするのは間違いで、そこに現代的なセンスを加えれば、新鮮で現代人が最も求めている独創性のある衣服が生まれる可能性を秘めている。今回の研究は、民族服を捉える段階で終わっているが、次回は実際のデザインへと展開したいと思う。

引用文献

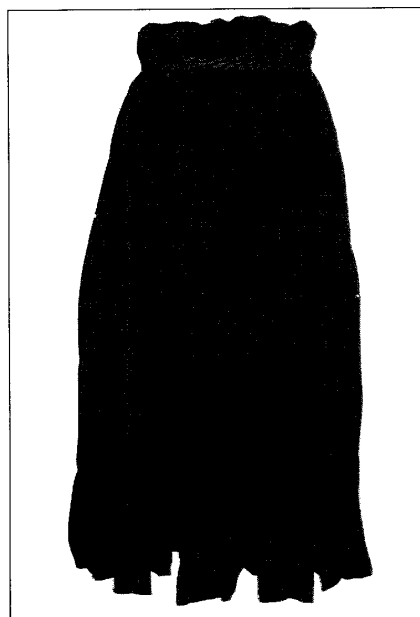
- 1) 小川安郎 「服装原論」 光生館 1975年
- 2) 大丸弘 「衣服標本属性論—MCD標本シソーラス—」 国立民族学博物館研究報告9巻3号 1984年9月 P.546~552
- 3) 社団法人日本建築学会 「設計方法Ⅲ、設計プロセス／道具の提案」 彰国社 1974年
- 4) 市田ひろみ 「世界の民族服をたずねて」 じゅらく染織資料館 1981年
- 5) 深作光貞・相川佳予子 「衣の文化人類学」 PHP研究所 1983年
- 6) 河合玲 「最新ファッションと商品企画」 ビジネス社 1977年
- 7) 松本敏子 「衣生活研究」 関西衣生活研究会 1977年5月、1978年6・7月
- 8) 松田喜美子 「新しい家政学」 ヒューマン・エコロジー研究所編 1980年

写真資料は、国立民族学博物館の衣類特別収蔵庫に保管されている衣類標本による。

1) 巻き付け形式



サリー
(ネパール王国)

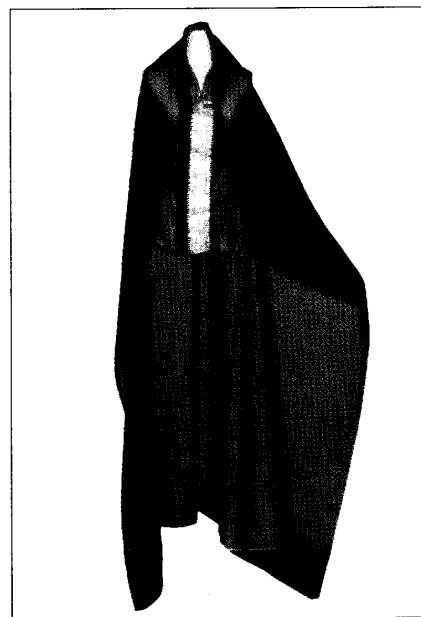


巻きスカート
(グアテマラ共和国)

2) 掛け被い形式

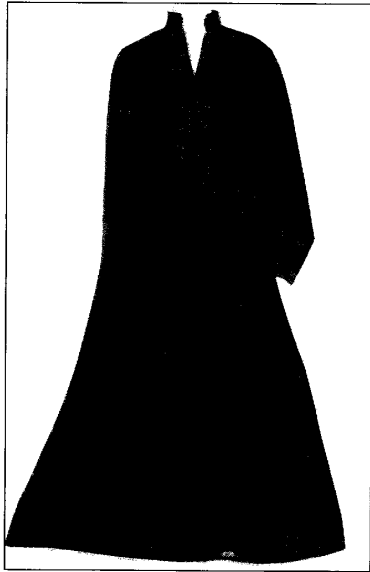


女性用ワンピース
(ソビエト社会主義共和国連邦)

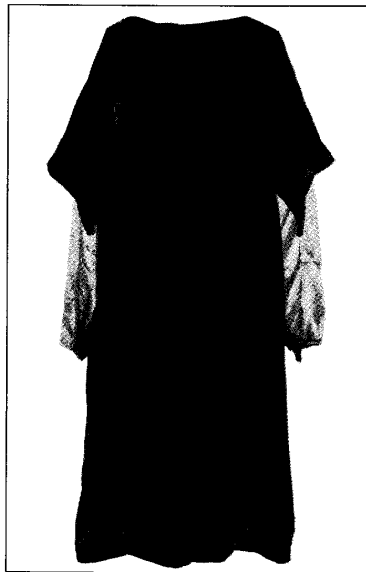


未婚女性用ガウン
(クウェート国・カタール国)

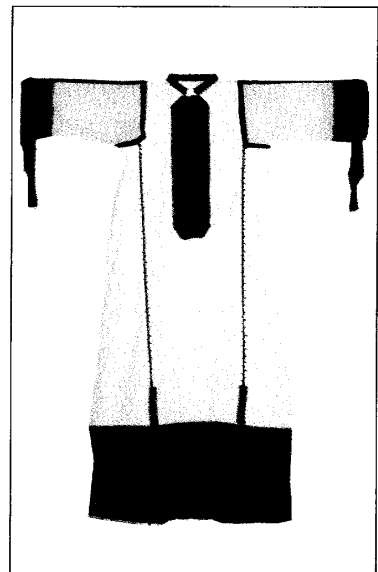
3) 貫頭衣形式



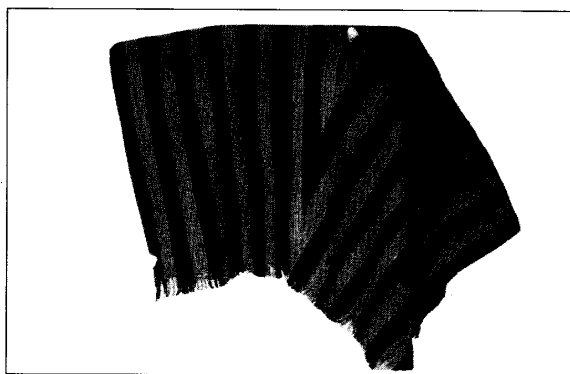
ワ ン ピ ース
(イ ラ ン 帝 国)



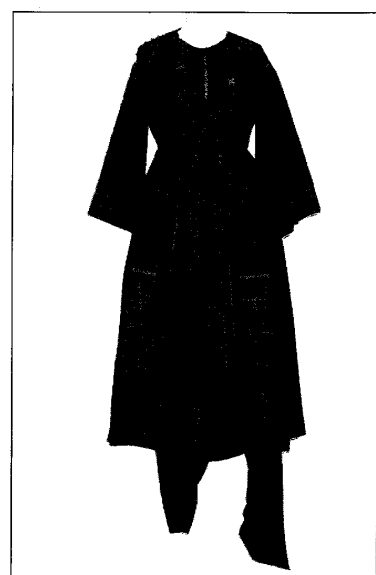
民 族 衣 裳
(ア メ リ カ 合 衆 国)



民 族 衣 裳
(ギ リ シ ャ)

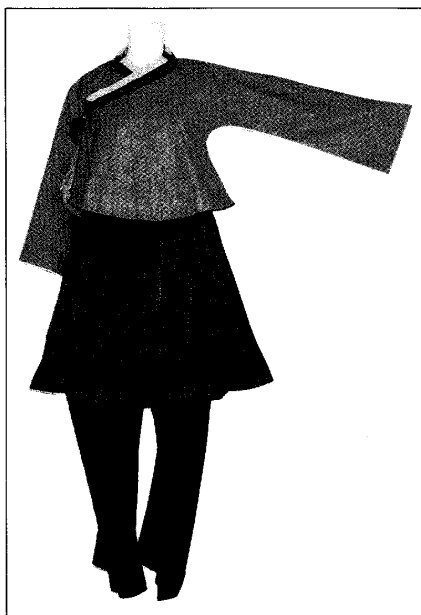


ポ ン チ ョ
(エ ク ア ド ル 共 和 国)

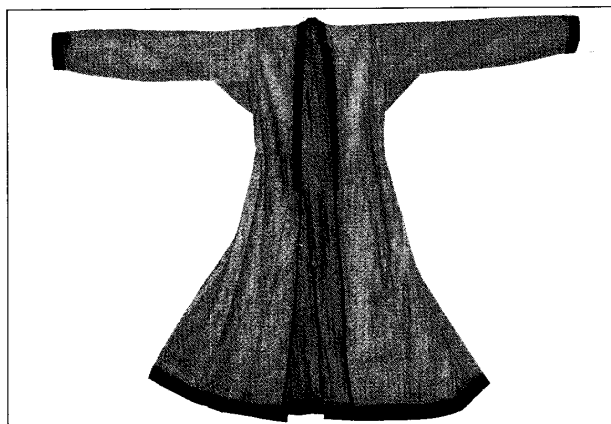


ロ ン グ ド レ ス
(ア フ ガ ニ ス タ ン 共 和 国)

4) 包纏形式



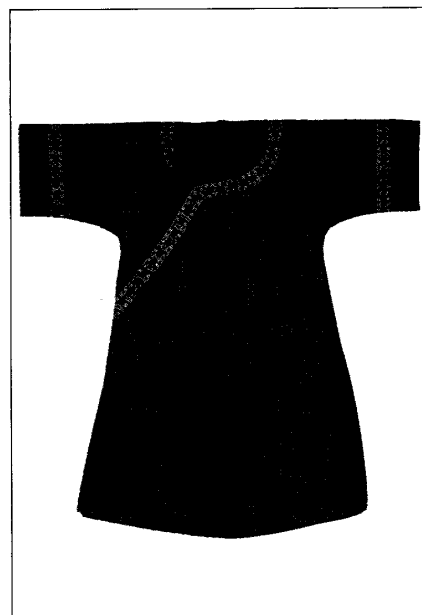
女性用夏服
(中華人民共和国)



女性用カフタン
(ソビエト社会主義共和国連邦)



ドレス
(アフガニスタン共和国)

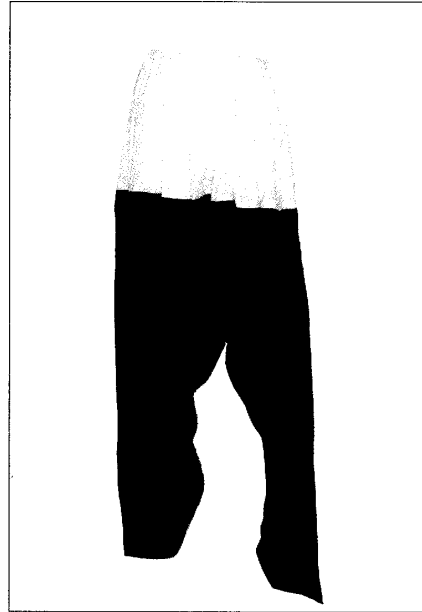


婦人用上衣
(貴州省)

5) パンツ・袴形式



ズボン
(フィリピン共和国)



ズボン
(アフガニスタン共和国)